

表面被覆工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

令和6年3月現在

 工法比較対象技術
 新規対象技術(調査中)
 削除技術

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大きな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上 (注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類2 Lv.2	分類3 Lv.3	分類4 Lv.4	技術の位置づけ	活用 効果 評価	活用 状況 (本省) %	掲載期間 終了技術 (終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備考	NETIS HP リンク先(注)	
																	技術の位置づけ
1	「NAV工法」・「NAV-G工法」・「NAV-G工法(UV仕様)」	KT-100023	VG	本技術は、対策後もコンクリート表面の既存ひび割れの進展状況や新たなひび割れ発生等を目視観察できる剥落防止工法である。変状の目視観察による追加対策の要否を判断でき、透明な耐候性塗料を使用することで紫外線の影響を受ける明かり部へも適用できる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修工	その他		【活用促進】 (2017.3.31~)	有	○ (R3年3月)	-				
2	ボンドKEEPメンテナンスVM-3	SK-110012	VG	本技術は、変性ポリウレタン樹脂による柔軟性に富み、広い施工可能温度領域を有するコンクリート片はく落対策工法である。従来は、当該箇所をハンリ撤去後、モルタル等で断面修復していた。本技術では下地のひび割れや変形に追従性を確保し、通年で施工が可能となつた。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		【活用促進】 (2016.8.18~)	有	○ (R4年3月)	-				
3	ハイブリッド形表面被覆材アロンゾコートZ-X、Z-V工法	CB-120013	VG	従来主流のコンクリート表面保護工は、エポキシ樹脂系材料であるが紫外線劣化により剥離がれが多く発生している。本工法は、コスト縮減・工期短縮・品質向上・施工性等に着目し開発した材料(セメント系無機質硬化材を主とし、アクリルゴムを混合)を用いる新工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		【活用促進】 (2016.8.18~)	有	○ (R5年3月)	-				
4	超薄膜スケルトンはく落防炎コーティング	CG-120025	VG	本技術は、透明コーティング材とガラス繊維による塗布接着型シート工法で、コンクリート構造物のはく落対策工事や劣化因子の対策工事に適している。施工後の表面異常が目視により確認できる。塗膜の超薄膜化によってコーティング材の使用量を抑え経済性の向上を果たした。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		【活用促進】 (2019.11.14~)	有	○ (R5年3月)	-				
5	ワンステップガード工法	KT-120082	VG	本技術は、特殊有機短繊維を混合したアクリル樹脂を塗布する方式のコンクリート片はく落防止対策工法で、従来は繊維シート接着工法で対応していた。本技術の活用により、シート接着工法が削減できることで、工期の短縮、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		【活用促進】 (2019.9.19~)	有	○ (R5年3月)	-				
6	ShieM-CS工法 Bタイプ	CG-140001	VR	本技術はコンクリート構造物の劣化防止を目的とした表面被覆工法で、パリア層を有する多層構造で形成されたシートをコンクリートに貼り付けることで、中性化・塩害・はく落の防止が可能となる工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有		-			https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-140001%20	
7	コンクリート剥落防止塗装 ベイントガードCV	KT-150090	VR	本技術は、アクリルエマルジョンにピロニオン繊維及び特殊繊維を配合した塗料を塗布する方式のコンクリート片剥落防止対策工法である。従来は、剥落防止工(アラミドメッシュ)で対応していた。本技術の活用により、接着工法の削減が可能で、施工性や経済性の向上が図れます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有		-			https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-150090%20	
8	無機接着剤使用の剥落防止工法	KT-160123	VR	本工法は、無機接着剤と繊維シートを複合使用した剥落防止工法で、従来は、ポリマーモルタル補修工法で対応。本技術の活用により施工後の可視化可能で下地コンクリート・繊維シートの劣化監視が容易となり、後々のメンテナンスが容易になると共に安全・経済性向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有		-	使用機器はハンドミキサー程度		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160123%20	
9	ダイナミックレジンストロングガード工法	KT-160153	VR	本技術は有機系繊維シートを用いて、橋梁やトンネルなどのコンクリート片のはく落を抑制・防止する工法であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、不陸修正工や中塗り塗布工等が削減され、工期の短縮となるため、経済性の向上が図れます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有		-			https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160153%20	
10	タフガードクリアー工法	KT-170015	VR	本技術は、コンクリート構造物に保護性能を付与すると共に、透明塗膜により視認性を確保する工法です。従来は、エナメル塗膜(有色)による表面保護工法で対応していた。本技術の活用により、目視での簡便かつ正確な調査ができるため、維持管理性の向上が図れます。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有		-			https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170015%20	
11	ショーボンドハイブリッドシート工法	TH-010017	VG	本技術は、予め工場で製作された特殊アラミドシートを現場で一層貼り付ける工法で、従来工法の現場積層型の工法に比べて施工工程の削減と品質の向上等を実現しました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		【設計比較】 【活用促進】	有	◎ (H29年4月)	○ (H29年4月)	-			
12	タフガードQ-R工法	KK-040054	VG	中塗りの強靱な塗膜特性及び塗装システムの速乾性により、従来は補修材工程の省略を可能にし、大幅な工期短縮とそれに伴う工事コスト低減を実現しました。また、無溶剤系の中塗り設計により汚染を可能とし施工性と環境へ配慮しました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		【設計比較】 【活用促進】	有	◎ (H29年4月)	○ (H29年4月)	-			
13	高分子系浸透性防水材 アイゾールEX	CB-030003	VG	増水効果・コンクリートの表面改質効果を併せ持つ表面被覆材(透湿性を有する水性・液型塗料)が、コンクリートの劣化を抑制する。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[H24準推奨]設計比較 【活用促進】	有	○ (H29年4月)	○ (H29年4月)	-			
14	SQSシステム工法レジネクトCVスプレー工法	CB-980104	VG	本技術は、超遠硬化するポリウレタン系材料を構造物に機械吹付けし、防水膜・保護膜を形成する工法である。本技術により、複雑な形状、理髪等の土工等により困難な部位でも信頼性の高い防水効果・表面保護効果及び優れた耐久性が期待できる。	材料	共同溝工(現場打ち)	防水工				有	○ (H29年4月)	○ (H29年4月)	250台以上			
15	ONR工法	KT-990214	VG	本技術はコンクリート構造物に対する断面修復および表面被覆工法で、従来は合成樹脂系塗料工法で対応していた。本技術の活用により、品質の向上が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有	□ (H29年4月)	○ (H29年4月)	-			
16	二方向アラミドシート補修・補強工法	CB-000024	VG	二方向アラミドシート工法は、わが国で250程度程度の施工実績があり、構造物の耐力の向上を図るとともに疲労による劣化を抑制し、構造物の寿命を延長させることができます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		【活用促進】	有	□ (H29年4月)	○ (H29年4月)	-			
17	ONR工法(はく落防止仕様)	KT-070087	VG	本技術はコンクリート構造物のはく落防止工法である。従来はピロニオン繊維とエポキシ樹脂を用いたシート工法で対応していた。本技術の活用により、コンクリートのはく落防止に対する安全性が向上するほか、ひび割れ追従性、中性化および塩害の抑制が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有	□ (H30年4月)	○ (H30年4月)	-			
18	Watercoat(ウォーターコート)	KK-180047	A	本技術は自然界にある約10種類の鉱物を加工した特殊セラミックの性質特徴を活用し水を電気分解し外壁等の表面の凸凹に電気メッキの原理で被膜を作るコーティング技術であり、従来は洗浄を行っていた。本技術の活用により、ライフサイクルコスト削減、品質向上が期待できる。	工法	道路維持修繕工	道路清掃工	標識清掃工						コーティング機:40台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180047%20	
19	光触媒塗料「オプティマスホワイト(ペイント) (通熱・断熱・空気清浄化)」	KK-180049	A	本技術は光触媒の親水性に加えて、有機物分解機能による空気清浄機能を有した汚れにくい内・外装用塗料製品の技術であり、従来はシリコン樹脂塗料(2級)であった。本技術の活用により品質の向上、地球環境への影響抑制が期待できる。	材料	建築	塗装工事									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180049%20	
20	ボンドVMネットレス工法	KK-180053	VR	申請技術は繊維シートの不要なコンクリート片はく落防止工法であり、従来はピロニオンシートを用いたはく落防止工法を使用していた。本技術の活用により、経済性、施工性の向上、工期の短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工								https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180053%20	
21	トンネルはく落対策工「ハードメッシュ」	KT-190006	VR	本技術は、高剛性の難燃性炭素繊維製グリッドとガラスメッシュを一体化したネット系のトンネルはく落対策工法で、従来は、はく落防止工や断面修復工等の補修工法で対応していた。本技術の活用により、施工面全体のはく落防止が可能となるため、安全性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190006%20	
22	ポリマーセメント系表面被覆工「UBレジン工法」	TH-190006	A	本技術は、コンクリート構造物の表面部から塩化物イオンや硫酸ガス、水、酸素などの侵入を抑制することで、中性化や塩害などの劣化を抑制するポリマーセメント系表面被覆工法である。従来は表面被覆工事比べ、工期短縮によるコスト削減が可能である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						受注生産品		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-190006%20	
23	無機繊維樹脂型コンクリート表面保護・はく落防止工法	CG-190009	VR	コンクリートの表面保護・はく落防止として、繊維シート工法が従来は使用されてきたが、本工法は透明度の高い超高強度ウレタン樹脂で構成された工法で、施工後の劣化状況の見ええ、2工程、攪拌作業を不要にすることで、工期短縮、人員削減を可能とした。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-190009%20	
24	ダイナミックレジンリアアラミド工法	KT-190046	A	本技術は特殊透明樹脂と特殊繊維シートの組み合わせにより、コンクリート片のはく落防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後下地の劣化状況を目視により確認ができるため、点検及び維持管理が容易となる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190046%20	

表面被覆工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

令和6年3月現在

工法比較対象技術 新規対象技術(調査中) 削除技術

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大きな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上 (注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類2 Lv.2	分類3 Lv.3	分類4 Lv.4	技術の位置づけ	活用効果評価	活用状況(本省)	掲載期間終了技術(終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備考	NETIS HPリンク先(注)		
25	トンネル小片はく落対策工「FF-TOC工法」	KT-190047	VR	本技術は、高伸度シートとウレタン樹脂を用いたトンネル小片はく落対策工法で、従来は、はつり落としや断面修復工事の補修工法で対応していた。本技術の活用により、はく落確への追従性が高く、透明樹脂により現状確認がし易いため、安全性および施工性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修工		その他							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190047%20		
26	ライフテックス水性はく落対策工法	KT-190117	A	本技術は、全工程を非危険物で構成した水性はく落対策工法で、従来は危険物を使用したはく落対策工法で対応していた。本技術の活用により、施工時の火災への安全性が向上し、作業員の人体への安全性、周囲環境への負荷を低減できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	断面修復工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190117%20	
27	補強型コンクリートはく落防止工法	QS-200020	A	本技術は、表面保護工(コンクリート)に関する技術である。ポリイソシアネート化合物と、活性水素を持つアミン化合物をスプレーガン内で混合させ、化学反応によりポリウレタン樹脂を生成し、コンクリート表面に強固な被覆を形成し、長寿命化を実現する工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-200020%20	
28	コンクリート保護シート「KYOZUN」	KT-200107	A	本技術は、コンクリート構造物の劣化を防止する高耐久塗料をシート化したコンクリート保護シートで、従来はコンクリート保護用の表面被覆塗料で対応していた。本技術の活用により、構造物の表面に保護シートを貼るだけの施工となるため、施工性の向上が図れる。	製品	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工										https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200107%20	
29	コンクリートプロテクト工法	KK-200050	A	本技術は、コンクリート表面にポリウレタン樹脂を塗布し耐久性・防水性・耐摩耗性を向上させる工法技術であり、従来はエポキシ樹脂とガラスクロスを用いた保護工法(手塗り工法)であった。本技術の活用により経済性、品質、施工性向上、周辺環境影響抑制、工期短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工							弊社1台(各地委託先所有機械にて施工)			https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-200050%20	
30	ボンドVMクリア工法	KT-210065	A	本技術は、強靭で耐候性に優れる透明なウレタン樹脂を用いたコンクリート片剥落防止工法で、従来はビニルネットと不透明な樹脂で対応していた。本技術の活用により、下地の視認、工期短縮が可能となり、安全性、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210065%20	
31	下地視認可能省工期剥落防止工法「ダイヤモンドシンクリアタフレジック」	KT-210087	A	本技術は特殊透明樹脂によりコンクリート片のはく落を防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後に下地の劣化状態を目視確認できるため、点検及び維持管理が容易となり、また工期も短縮されているため、経済性も向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210087%20	
32	ポリウレタン樹脂を用いたコンクリート構造物の機能保持・向上技術「タフネスコート工法」	QS-210065	A	本技術は表面保護工法に関する技術である。タフネスコートをコンクリート構造物表面に吹き付けることにより、剥落防止、貯水確保、耐久性及び耐衝撃性向上といった機能をもたらすことができる。本技術の活用により、維持管理コストの低減並びに長寿命化を図ることができる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-210065%20	
33	コンクリート構造物補修材「EXGリベアシリーズ」	KT-220034	A	本技術は、補修部分が湿潤状態でも施工可能な水性エポキシ、水性アクリル製の補修材で、従来は表面被覆工(コンクリート保護塗料OC-B)で対応していた。本技術の活用により補修部分は、湿潤面での乾燥、塩害面での塩分除去洗浄が不要となる為、工期が短縮する。	材料	コンクリート工	その他										https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220034%20	
34	コンクリート打放し用の仕上げ材「シェルタクリヤ」	KT-220060	A	本技術は、コンクリート構造物の表面を水分や塩分等から保護する水性のクリア塗料で、従来は、シラン系表面浸材で対応していた。本技術の活用により、コンクリートの中酸化および塩分の浸透を抑制する効果が高く、低VOC材料であるため、品質および安全性の向上が図れる。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工										https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220060%20
35	シリコン樹脂を用いた「ハフアーコート」工法	KT-220094	A	本技術は、鋼橋やコンクリート構造物の防食および表面保護を行うシリコン樹脂のコーティング工法で、従来は、塗替塗料(C-5系(重防食塗料))で対応していた。本技術の活用により、3層の塗膜層でも40年以上の長期耐久性が確保できるため、品質および経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他									https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220094%20	
36	コンクリート用有機系表面保護材「U-レジストクリアコートノガード」	CG-220023	A	本技術は、エポキシ樹脂と強靭なウレタン樹脂を主材料に用い、コンクリートへの劣化因子の侵入防止と、はく落防止の両方が可能となる表面保護技術である。塗膜が透明でメッシュも使用しないため、施工後の構造物の点検が容易で、工期短縮・施工費の削減も可能である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工										https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-220023%20
37	ポリウレタン樹脂による剥落防止工法	KK-230027	A	本技術は、コンクリート構造物に高強度のポリウレタン樹脂を吹付けて剥落を防止する工法で、従来は連続繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により樹脂の塗り重ねや連続シートの含浸接着の工程が省略でき、工期短縮及び経済性・施工性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工										https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-230027%20
38	省工期剥落防止対策「STUクリアシート-S工法」	KT-230146	A	本技術は連続繊維を樹脂でラミネートしたほぼ透明のシート1層を消防法上非危険物となる接着剤で貼付けるだけの剥落防止工法である。従来は連続繊維シート含浸工法で対応していた。本技術の活用により、コスト縮減と工期の短縮、火災事故への安全性が向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工										https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230146%20
39	コンクリート構造物簡易補修材「タフガードリベアスプレー」	KT-230168	A	本技術はコンクリート剥離部や鉄筋露出部に塗布し簡易的な剥落防止対策や防食効果がある1液エアゾールスプレー缶タイプ補修材で、従来は高濃度重鉛止めスプレーで行っていた。本技術の活用により本補修までの間、躯体劣化・剥落を予防できるため安全性が向上する。	製品	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他										https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230168%20
40	透明なはく落防止対策「ニュークリアクロス工法」	KT-230176	A	本技術は、コンクリートはく落防止対策工法について、含浸より透明になるビニル繊維シートを用いた技術である。従来は有色のビニル繊維シートで行っていた。本技術の活用により構造物の表面性状を目視で観察することが可能のため、施工性(維持管理時)の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工										https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230176%20